

一般演題 2-4

HBO治療装置の電子カルテとの連動について

沖野勝広¹⁾ 東 幸司¹⁾ 長野準也¹⁾
井上裕佳子¹⁾ 楠 勝介²⁾ 鈴木義博³⁾

- | | |
|----|---------------|
| 1) | 濟生会松山病院 ME部 |
| 2) | 濟生会松山病院 脳神経外科 |
| 3) | 株式会社 小池メディカル |

【目的】

近年、電子カルテ導入施設が増加している。しかし、HBO治療分野でのオーダーリングや電子カルテ導入についての情報は決して多くはない。

そこでデジタル化・オンライン化・オーダーリング化などを含め、当院にて実際電子カルテ始動後の利点・欠点・コストについて評価・検討した。

【導入の流れ】

当院でのHBO治療導入当初からの流れ。

2006年11月:HBO治療装置の導入

2009年 3月:電子カルテ導入が決定

2009年 12月:PCを設置し治療記録表・患者情報書のデジタル化 (図1)

2010年6月:高気圧酸素治療室に専用サーバを設置して院内ネットワークと治療装置の接続

2010年7月:HBO治療のオーダーリング化

2010年 8月1日:電子カルテの完全始動。(図2)

【利点】

- ・システム導入により、治療後の記録表作成並びにペーパーレス化が可能になり、医事への情報伝達が電子化され、書類の紛失、患者間違えのリスクが減少した。
- ・治療データと生体情報は、自動的に治療装置内のハードディスクに記録されるので安心かつ検索も容易になった。
- ・個人情報の含まれる治療記録表は、サーバ内に保管するため、バックアップやセキュリティ対策も万全。
- ・WEBサーバ機能を用いて、患者カルテからの治療記録表の参照がどこからでも可能になった。
- ・他治療との重複予約が減少し治療の円滑化がはかれた。
- ・高気圧治療室にて高気圧治療前の申し送り一覧や

注射・点滴・処置・検査結果などタイムリーな患者の情報が入手可能になった。

【欠点】

- ・当院ではオーダーすることで指示箋(依頼箋)が発行されるため、完全ペーパーレスにはなっていない。
- ・患者のボディチェックはペーパー上にてしっかりチェックする必要があるため、ペーパーレスにはなっていない。
- ・ランニングコストが増加した。
- ・過去の治療を閲覧するにはスタッフIDやパスワードや患者IDなどを入力し電子カルテを開く必要があり、以前より対応に多少時間を要する。

【まとめ】

- ・手書きの治療記録表から始まり、パソコン導入による治療記録書類のデジタル化、オンライン化、オーダーリング化の後、電子カルテに対応できた。
- ・導入装置自体に患者情報の管理機能がもともと装備されていたので低コストに抑えられた。
- ・未だ紙を使用している業務もあり、今後は完全ペーパーレス化や仕様レベルのアップなどを検討したい。

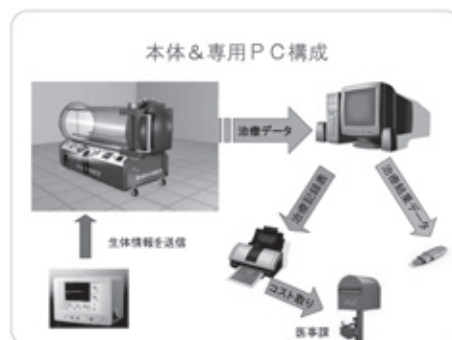


図1



図2

【参考文献】

牧 潤二:電子カルテ導入実践ガイド. 株式会社医学芸術社. 2002年